

P61-102682A
1/2

(11) Publication number : 61-102682

(43) Date of publication of application : May 21, 1986



(51) Int. Cl. G09B 17/04

(21) Application number : 59-225282

(22) Date of filing : October 25, 1984

(71) Applicant(s) : Hiroshi TAKAI et al.

(72) Inventor(s) : Hiroshi TAKAI et al.

RECEIVED
MAR 11 2002
Technology Center 2100

(54) A DEVICE FOR TRAINING RAPID READING

Claim:

(1) A device for training rapid reading characterized by comprising: a display means for displaying a part of a sentence for a predetermined time; a cycle means for making said display means display the sentence that follows said part of the sentence after said display time has expired; and an input means for selecting arbitrarily said display time or an amount of sentences to be displayed.

(2) The device for training rapid reading according to claim 1 characterized in that said input means can select arbitrarily said display time or the amount of sentences to be displayed.

(10-14 lines of bottom-right column at page 2)

Further, the speed of reading sentences can be quantifiably measured by changing the amount of sentences and display time. Therefore, aim of training rapid reading can be fixed and target

P61-102682A

2/2

of training can be set directly.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-102682

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)5月21日

G 09 B 17/04

6612-2C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 速読訓練装置

⑯ 特 願 昭59-225282

⑰ 出 願 昭59(1984)10月25日

⑱ 発 明 者	高 井	裕	新潟市秋葉通3丁目40番地
⑲ 発 明 者	高 井	道 子	新潟市秋葉通3丁目40番地
⑳ 出 願 人	高 井	裕	新潟市秋葉通3丁目40番地
㉑ 出 願 人	高 井	道 子	新潟市秋葉通3丁目40番地
㉒ 代 理 人	弁理士 牛 木	腰	

明 細 書

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は文章読み取り速度を速める訓練をできる速読訓練装置に関するものである。

〔従来の技術とその問題点〕

一般に、文章の読み取り速度は一読により認識できる文字、数字などの読み取り合計数によって決定される。単位時間当りのこの読み取り合計数を増加させ、短時間でより多くの文章を認識すると云う速読力を高めることが従来より望まれている。従来の速読力を高める方法としては、意識して文章の読み取り速度を速めたり、読み取り量を多くするなどがあるが、直接速読力を高めるとは必ずしも言えず、又、定量的に速読力の向上を測定することができなかつた。

本発明は上記事情に基づいてなされたものであり、定量的に文章の読み取り速度を測定しな

1. 発明の名称

速読訓練装置

2. 特許請求の範囲

- (1) 文章の一部を所定時間表示する表示手段と、前記表示時間経過後前記文章の一部に続く文章を前記表示手段に表示させるサイクル手段と、前記表示時間または前記表示される文章量を任意に選択できる入力手段とを備えたことを特徴とする速読訓練装置。
- (2) 前記入力手段が前記表示時間及び前記表示される文章量を任意に選択できることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の速読訓練装置。

から速読力の向上を図かる速読訓練装置を提供することを目的とするものである。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は一連の文章の一部を所定時間表示する表示画面と、所定時間経過後前記表示されている文章に続く文章を表示させるサイクル機能と、前記所定時間または前記表示される文章量を任意に選択できるキーボードなどの入力手段とを備え、順次所定時間を短くしたり、あるいは文章量を多くして速読力を向上させるものである。

〔作用〕

訓練者は表示画面上に表示される文章の一部を一読し認識すると、上記表示している文章が消え、次に続く文章が代わりに表示され、再び訓練者はこの文章を一読し認識する。以後、これを繰り返し、順次表示されている時間を短く

以上によつて構成される本発明装置は、先ず訓練者が表示手段1に表示される文章が縦書きか横書きか、1回に表示手段1に表示される文章量、及び表示される文章の表示時間などを入力手段5で任意に選択されるものである。訓練者は表示手段1で表示される文章を設定された表示時間内で一読し認識する。表示時間経過後、サイクル手段によつてそれまで表示されていた文章が消去され、それに続く文章が表示手段1に表示される。訓練者は同様にこの文章を一読し認識する。以後次々にサイクル手段4によつて表示される文章を読み取る訓練をすることによつて初めは表示時間内に表示される文章を良く認識できなかつたのが、次第に完全に認識できるようになる。充分に認識できるようになると、訓練者は入力手段5を操作して表示時間を短くする。このようにして、表示時間を除々

くするか、または表示されている文章量を多くすることにより速読力を向上させる訓練となる。

〔実施例〕

本考案の一実施例を第1図のブロック図を基に説明する。同図において、1は表示手段であるCRTなどの表示画面である。2はフロッピーなどの文章を記憶する記憶手段である。3は記憶手段2の文章中の一部を前記表示手段11に所定時間表示させ、この表示時間経過後、表示されている文章を消去させ、代わりに次に続く文章の一部を表示させるサイクル手段4を備えた演算手段である。この演算手段3は訓練者によつて操作可能なキーボードなどの入力手段5を備えている。この入力手段5は文章が表示手段1に表示される表示時間、表示される文章量及び表示される文章が縦書きか横書きかなどを任意に選択することができるものである。

に短くすることにより文章の読み取り速度を通常の数倍～数十倍の速さにすることが可能となる。

表示時間を除々に短くするかわりに1回に表示される文章量を除々に増やすことによつても同様な効果を得ることができる。このようにして、文章の縦書きか横書きかを設定し、除々に文章量を多くするか又は文章の表示時間を短くし、繰り返し表示される文章を読み取る訓練により速読力が向上する。そして、文章量や表示時間を変化されることにより定量的に文章の読み取り速度を測定できるため、速読訓練の指標ができるとともに訓練の目標を直接設定できる。

〔他の実施例〕

以上本発明の一実施例を詳述したが、本発明の要旨の範囲内で適宜変形可能である。例えば、

文章記憶手段としてはフロッピーの他にカセットテープなどを使用することが可能であるし、サイクル手段を備えた演算回路としてはワードプロセッサやパーソナルコンピュータなどを使用できる。また入力手段としてはキーボードの他に、ダイヤル等のツマミも使用できる。

〔発明の効果〕

以上詳述したように本発明によれば、文章の一部を所定時間表示する表示手段と、前記表示時間経過後前記文章の一部に続く文章を前記表示手段に表示させるサイクル手段と、前記表示時間または前記表示される文章量を任意に選択できる入力手段とを備えたことにより、定量的に文章の読み取り速度を測定しながら速読力の向上を図られる速読訓練装置を提供でき、速読練習用に好適な教育機器となる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明装置の一実施例を示すブロック図である。

1・・・表示手段 2・・・記憶手段 3・・・演算手段
4・・・サイクル手段 5・・・入力手段

特許出願人	高井格
同	高井道子
代理人 弁理士	牛木 隆

第 1 図

